

「地域生活支援拠点等の整備等に関する実態調査」  
各自治体等の概要版

長野県 北信圏域

(中野市・山ノ内町・飯山市・木島平村・  
野沢温泉村・栄村)

# 目次

# CONTENTS



2

| **01** | 北信圏域（中野市、山ノ内町、飯山市、木島平村、野沢温泉村、栄村）の概要

3

| **02** | 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

4

| **03** | 各機能の具体的な内容

6

| **04** | 地域生活支援拠点等のイメージ図

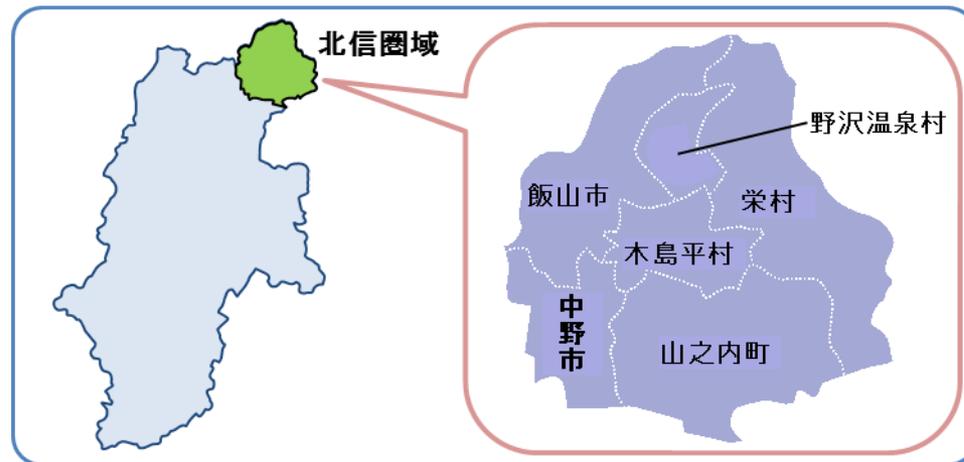
7

| **05** | 地域生活支援拠点等における支援の事例

8

| **06** | 地域生活支援拠点等の整備・運営における今後の課題・方針

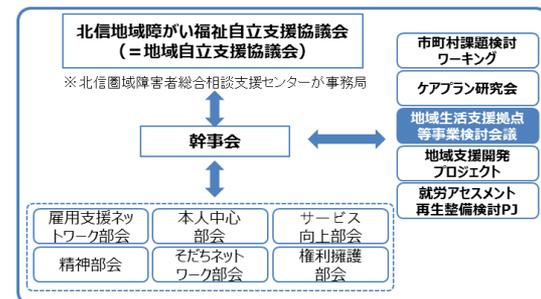
- 人口 85,487人（平成29年9月1日現在）
  - うち 岳南地域（中野市43,157人、山ノ内町11,999人）
  - 岳北地域（飯山市20,580人、木島平村4,499人、野沢温泉村3,416人、栄村1,836人）
- 障害者の状況（平成29年3月末現在）
  - ・身体障害者手帳所持者 4,119人
  - ・療育手帳所持者 874人
  - ・精神障害者保健福祉手帳所持者 815人
  - ・障害種別に関わらず障害者、家族共に高齢化が進行
- 北信圏域の位置



# 02 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

## 整備のプロセス

- 第4期圏域障害福祉計画（平成27～29年）に、面的な体制構築を明記
- 平成27年7月に、「地域生活支援拠点事業コア会議※」を設置して検討開始  
※平成29年度から「地域生活支援拠点等事業検討会議」に名称を変更
- 平成28年度に「総合安心センターはるかぜ」（以下「はるかぜ」）を試行、平成29年度に本格始動



## 整備類型

### 併用整備型

（「はるかぜ」を核に、圏域内の既存事業所等との連携による面的整備を組み合わせた併用整備型）

## 概要

- 地域生活支援拠点等の前身である取組を行ってきた実績がある法人が多機能型として整備し、緊急対応コーディネーターを配置した。
- 基幹相談支援センターに地域あんしんコーディネーターを配置し、地域生活支援拠点等を補完する役割を担う
- 2市1町3村で「ハイリスク者登録台帳」（障害福祉サービスにつながっていないが緊急時対応が想定される人）を整備し、地域あんしんコーディネーターを中心に、地域の支援体制を構築
- 長野県自立支援協議会を通じて管内市町村等の地域生活支援拠点等の整備を積極的に支援

## 相談

- 「はるかぜ」では相談支援事業の他、緊急対応コーディネーターを2人配置し、24時間365日の緊急時の電話相談を受け付け、関係機関への連絡調整を行うほか、必要に応じて緊急時の駆けつけを行う
- 緊急時対応の利用者は、緊急時に備えるため、事前登録制。登録者への支援として、クライシスプラン作成により予防支援、緊急支援を強化
- 事前登録者以外の人への24時間365日の緊急時電話相談は、基幹相談支援センターが窓口となり、基幹相談支援センター（北信圏域障害者総合相談支援センター）の地域あんしんコーディネーターが対応

## 緊急時の受け入れ

- 「はるかぜ」の短期入所6床のうち、2床を空床確保
- 基幹相談支援センターの地域あんしんコーディネーターのコーディネーションにより、「はるかぜ」の登録者以外の緊急時受け入れも行う
- 緊急時の受け入れ期限は48時間以内とし、48時間以内に出口支援会議を開催し、次の受け入れ先を探す
- 障害種別問わず幅広く受け入れが可能である

## 体験の機会、場

- 「はるかぜ」に施設入所支援利用者優先のグループホーム体験部屋を設置
- 「はるかぜ」の短期入所 6 床のうち、緊急用の 2 床を除いた 4 床のうち 1 床を一人暮らし体験に活用

## 専門的人材の確保・養成

- 「はるかぜ」で、医師を講師に招き、医療的ケアが必要な人への緊急時の対応シミュレーション研修を開催

## 地域の体制づくり

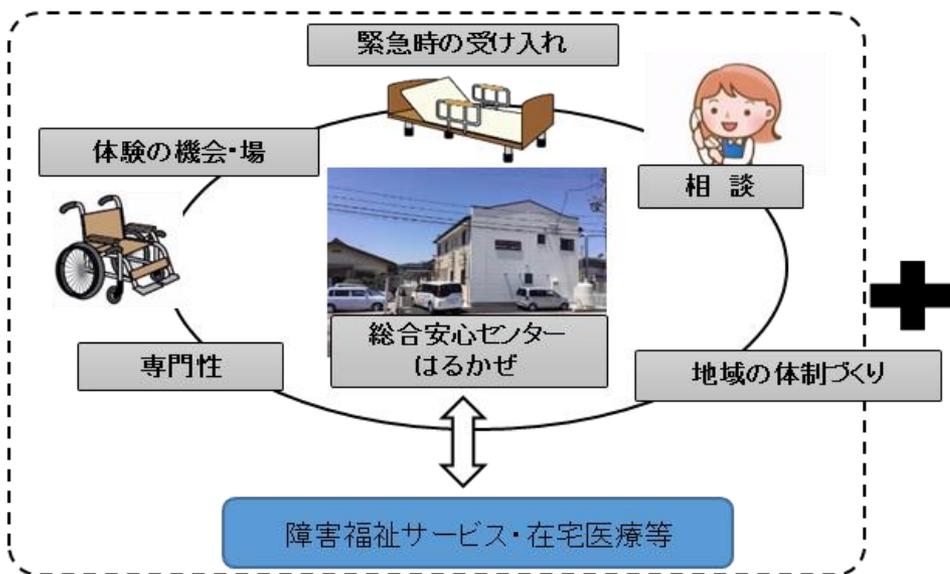
- 地域あんしんコーディネーターが 6 市町村毎に「ケース進行会議」を開催。計画相談につながっていない障害者のうち、緊急時対応が想定される「ハイリスク者」を抽出。緊急対応に至らないための予防、緊急時の対応、緊急対応後の措置などを記帳する「ハイリスク者の登録台帳」を、6 市町村ともに整備
- 地域あんしんコーディネーターは、地域連携会議や相談支援専門員との会議を通じて情報収集し、相談支援事業所や警察などへのアウトリーチを実施

## その他

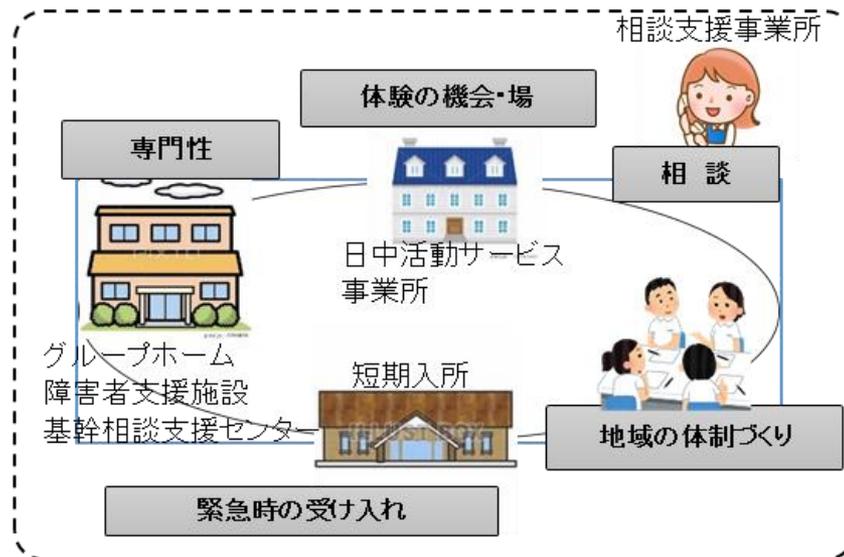
「ー」

- 「はるかぜ」を中心に、圏域内の既存事業所等との連携による面的整備を組み合わせた併用型
- 2市1町3村で「ハイリスク者登録台帳」（障害福祉サービスにつながらないが緊急時対応が想定される人）を整備し、地域あんしんコーディネーターを中心に、地域の支援体制を構築

北信圏域の核となる地域生活支援拠点事業所  
【多機能拠点整備型(グループホーム併設型)】



北信圏域の協力事業所  
【面的整備型】



## 利用事例

## 1

**利用者の属性**

- ・20代男性。両親ときょうだいと同居
- ・アスペルガー障害と強迫症状がある。イライラすると父やきょうだいに対して暴力が出る

**利用した経緯**

- ・家族に暴力をふるう度に、病院への医療保護入院を繰り返していたため、家族から入所も視野に入れて欲しいと相談を受ける。
- ・入院中から、計画相談支援専門員による日中活動事業所や緊急時の短期入所等の見学を約1年間行ってきた
- ・退院後、自立訓練事業所に毎日通所
- ・家族に対して暴力が出た場合は、地域定着で駆けつけ支援を行うとともに、本人がクールダウンできる「総合安心センターはるかぜ」の緊急短期入所をセットで利用している

**利用の効果等**

- ・当初は、地域定着支援の駆けつけ支援と空床を頻繁に利用していたが、支援会議で緊急から予防の視点に切り替え、計画的な短期入所と行動援護に支援方法を変えたことにより、引き続き在宅の生活を継続している
- ・現在は、ヘルパーを利用して一人暮らしをしている

## ● 医療的ケアの対応

医療的ケアは需要はあるものの、看護師不足で対応できないこともある。圏域内の介護老人保健施設（病院併設型 2 か所と単独型 1 か所）での緊急時利用、一般的な短期入所の医療的ケア強化案を検討中

## ● 北信圏域全体への対応

「総合安心センターはるかぜ」は北信圏域の最南端にあるため、岳北地域での緊急時の駆けつけや受け入れ、岳北地域からのアクセスの悪さなどが課題

## ● 面的整備の資源不足（在宅支援、短期入所、グループホーム）

在宅移行では、特に24時間対応や医療的ケアが必要な場合、つなぎ先が少なく難しい。短期入所やグループホームが少なく、緊急時の受け入れが課題

## ● コーディネート機能の強化（地域生活支援拠点等、基幹相談支援センター）

事業所毎のサービス提供量や範囲、緊急に至らないための社会資源の創出や人員確保などの課題を検討して実施する力量が、「総合安心センターはるかぜ」を始めとして全体的に弱い。相談支援体制強化に必要な相談支援事業所間の連携や専門的指導や助言などについて、基幹相談支援センターが果たしている機能が弱い